



新年挨拶

岩手河川国道事務所長
清水 晃

平成30年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

東日本大震災から7年を迎え、各地で復興が進む中で一昨年台風10号は三陸沿岸部を通過し、再び大きな被害をもたらしました。被害に遭われた皆様や今なお避難されている皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早く以前の生活に戻れますことを心よりお祈り申し上げます。

昨年は、昭和22年9月に来襲したカスリン台風から70年の節目を迎えました。昭和22、23年に来襲したカスリン・アイオン台風は、戦後間もない日本を2年連続で襲い、特に北上川流域に与えた被害は大きく、一関市を中心に未曾有の被害をもたらしました。

今日の北上川では、河川改修事業の進展により治水安全度は向上しておりますが、近年頻発している短時間の集中豪雨や局所的な豪雨による施設能力以上の洪水が発生する可能性があります。

岩手河川国道事務所が実施する河川事業では、平成14年、19年洪水対応としての中流部の緊急治水対策事業、狭隘地区の治水対策事業などを進めており、一関遊水地事業では県内最大となる大林水門と長島水門の建設、小堤の整備、支川磐井川の堤防拡幅を実施してきているところです。また、ハード対策の他、防災情報の充実や防災意識の啓発活動等のソフト対策を气象台や県、市町が一体となって設置した「北上川上流洪水減災対策協議会」の中で「被害の最小化」に向け相互に連携・支援を進めると共に、中小河川等においても併せて取組を推進することにより、安全・安心な社会を構築していきたいと考えています。

砂防事業では、岩手山及び秋田駒ヶ岳の噴火に伴う土砂災害を防止するため、今後の火山活動の推移に注意しつつ、砂防施設の整備を着実に実施していきます。

道路事業では、復興支援道路である「東北横断自動車道釜石秋田線」及び「宮古盛岡横断道路」の事業を鋭意進めております。広い県土の高速交通ネットワークを図るため、遠野道路（約11km）の平成30年度、都南川目道路（約3.4km）の平成31年度、区界道路（約8km）の平成32年度の開通目標へ向け、事業を促進するとともに、平津戸松草道路（約7km）においても残る構造物の早期着手を図っていきます。

こうした高速交通ネットワークの整備により、「企業立地及び工業団地造成の拡張」や「釜石港のコンテナ貨物取扱量の大幅な増加」等といった「ストック効果」も発現されてきております。また、内陸の骨格道路である国道4号・46号では、都市交通の円滑化や安全確保、物流・流通の効率化による「生産性向上」を目的に、「金ヶ崎拡幅（約5.2km）」や「盛岡西バイパス（約3.6km）」といった改築事業及び「一関地区事故対策」や「川久保交差点改良」といった交通安全事業を進めていきます。

老朽化対策については、「岩手県道路メンテナンス会議」において情報共有を図りながら、県・市町村と一体となって進め、産学官協力のもと道路施設の長寿命化に取り組んでいきます。建設産業の「生産性向上」のための「i-Construction」、現場環境の改善などについても、各種業界の方々と協力しながら一層取組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

この1年が今まで以上に被災地の復興が進み、皆さまにとって素晴らしい年となることをお祈り申し上げます。